明治三庚午歳

御用留

八月より

名 主

僖一郎

陸軍国章並諸旗章兵部省挑灯幕

等図面之通候條府藩県一般紛

敷印相用申間敷候事

挑灯・旗の図

(五枚)

別帳之通御布告『相成『付早々御順達可被成候

午七月廿五日

水房より早々下里へ返納仕候

近年違作打続候二付今年之所是非共豊熟

致候様思召候処春来気候宜敷麦作者

豊饒いたし殊二田方生立も宜敷豊熟

者必然与唱候得共先頃中前橋表ニ而者 者必然与唱候得共先頃中前橋表ニ而者 を二付深御悩慮被遊候所より此上益 候二付深御悩慮被遊候所より此上益 順気豊作之為今般厚以思召ヲ五穀 順気豊作之為今般厚以思召ヲ五穀 和執行有之ニ付此旨厚相弁村々小百姓并ニ 行中拝供服改之上可罷出候尤御札 之義者来ル十日より於局ニ相渡候間最寄 之義者来ル十日より於局ニ相渡候間最寄 と義者来ル十日より於局ニ相渡候間最寄

<sub>年</sub>八月三日 民政裁判所

十六日納之村々者十五日ニ可相納もの也申迄も無之候得共金納可致候条為念相達申迄も無之候得共金納可致候条為念相達申迄も無之候得共金納可致候条為念相達申迄も無之候得共金納可致候条為念相達申込も無之候得共金納可致候条為念相達申込も無之候得共金納可致候条為念相達申した。

年八月五日卯上刻 玄友 玄友意早々御順達被成留『村より御返却可被成候以上別紙弐通之趣御達有之候』付写『以相達候間得其

覚

一本馬壱疋

右者明十日当所出立越後六日町弘長寺

迄罷越候間宿々人馬遅滞無之様継立

頼入奉存候以上

遊行上人直未

武陽入間郡野田

十念寺

但阿

EI

午 八 月

宿々

問屋

御役人中

野田石井高谷四ヶ村奈良梨小前田八幡山

藤岡山名高﨑金子三国六日町

境内除地山林等明細『取調差出候様兼而当御支配所諸寺本末寺号始元朱印地又者

御達可有之候右調方拙者共江被仰付候ニ付

"付左樣御承知被成差支無之樣御取計 依<sup>而</sup>明廿一日千手堂村始"其御村々へ廻村致

可被成候尤村移之義ハ手数之程も相分り

不申候に付先村より小觸ヲ以御達可申候

此状早々御順達可被成候已上

午八月廿日

下里村

頭取 玄友

鎌形村 肝煎役

千手堂平沢志賀村遠山下里小川安戸

皆谷贄川右村々御名主中

過日申上候右帳面認之義用紙美濃紙ニ御座

候間御用意可被成候

当御支配所諸寺本末寺号始ゞ元朱印地

又者境内除地山林反別等明細取調差出候

様民部省より御達ニ付取締役始メ三役

之者江右取調方申付候猶委細之儀者三役江

承合不都合無之様可致此旨致承知寺々へ

不洩残可申付者也

庚午八月十八日 民政裁判所

御用三役之内罷越候間境内除地朱印等前件之趣御達『付近日其御村々江為取締

境目等巨細御取調置可被成候猶委細之

義者其節可得貴意候以上

八月二十一日 下里村

玄友

千手堂村 遠山村 平沢村 志賀村

大蔵村 根岸村 将軍沢村 須江村

## 右村々御名主中

此状早々御順達被成留り村より御返却

可被成候

庚午八月廿二日

 $\triangle$ 民政裁判所

未ノ上刻発ス 安戸村名主

村順回可相達候

志賀村

百 姓

富五郎

同人親類

壱人

与合

差添村役人 壱人

壱人

右ハ御用之義有之条明後廿四日朝四ツ時

迄二銘々印形持参可罷出もの也

午八月廿二日 刑法局

右村名主

聞候迄も無之候得共去巳年中高掛ヲ以正 兼而為融通ノ渡置候銭切手之義者改而申

金金札引換有之処大札多殊二其砌

正銭払底弐分金者贋金上而已相成一統

<sup>江</sup>割渡方 <sup>1</sup>も差支難渋およひ候処より為

融通之銭切手下ヶ渡願出候儀も有之所より

則渡置候処近来正銭立廻『壱分以上之

切手者不弁之趣殊更贋も立廻リ疑

敷趣に付今般改之上極印いたし小

切手。不抱引換可遣候間大小切手。不抱所

持之分ハ不残何郡何村誰員数何程

ツヽ与銘々認ゞ封印いたし村限リ三役

名主上ニテ取集メ来ル廿三日より来月五日

迄之内当引換所江持参可致候自然等

閑二相心得右日限之内持参不致分者

訳柄二寄引換申間敷条此旨小前

末々迄不洩様相廻し無遅滞日限迄こ

持参引換可申もの也

未ノ下刻 八月廿三日 民政裁判所

前書之御達有之条御承知被成其趣頭取

衆拙宅江来ル晦日迄之内御持参可被成候以上

千手堂平沢志賀遠山下里小川安戸皆谷

贄川

右村々

御名主中

来ル五日迄に出局可致旨早々分界之内に相天朝雛形之通御布告有之候に付於村々取調

達し候様可致尤明細帳も同断に付左様

相心得可差出者也

丸山愛作

八月廿三日 田辺武一郎

鎌形村

簾藤万衛

前書之通

御達有之候条御承知被成別紙雛形

之通微細。取調来月五日迄。無遅延

御出局可成候此廻状早々御順達被成

留ッ村より御返却可被成候以上

午八月廿四日 簾藤万衛

千手堂村 平沢村 志賀村 遠山村

下里村 小川村 安戸村 皆谷村

贄川村 右村々名主中

年号

村鑑帳

可 +

高何程

田何程

石盛

畑何程

何年度御検地

水町損有無 小物成諸運上有無

家数何軒

牛馬何疋

人数何人

農間女稼

林何ヶ石

百姓林何ヶ処

秣場何ヶ所

漁猟場何ヶ所

御普請所

自普請所

米津出之場何ヶ所

東京迄里数

村方之内山里并豊窮之仕訳

年号月 何州何郡何村 右之通相違無御座候以上

民政

御裁判所

8

今般従

天朝雛形之通御布告有之候二付於村々

取調来月五日迄二出局可致旨早々分界

内江相廻し候様可致尤明細帳も同断ニ付

左様相心得可差出もの也

庚午八月廿三日

丸山愛作

田辺武一郎

前書之通御達有之候条御承知被成別紙

雛形之通微細 "御取調来五日迄 "無遅

延御御出局可被成侯此廻状早々御須達被成

ッ村より御返却可被成候已上

午八月廿四日

鎌形村

簾形質

五貫七百文 僖一郎

壱貫文

平三郎

四貫文

常五郎

壱貫文

弐貫五百文 庄九郎

拾三貫百文 沢五郎 市三郎

壱貫六百文 三次郎

七百文 万福寺

壱貫文 権蔵

漆造

四貫百文 忠右衛門

五貫文

五百文

万五郎

取扱来候所自今管轄地方官江 寺院住職継目等従来本寺本山ニ市

## 一応掛合之上可取計事

但 住職不行跡不正之義等有之節者

地方管より可掛合之条其本寺本

山より人撰可取計事

庚午八月

太政官

右之通御布告有之候間村々寺院江不

洩様可相達もの也

民政裁判所

当年出水等『而亡所出来租税』相係『候分

破損流失等致候分巨細取調可申出候其外堤川除御普請所を始ゞ民家ニ至迄

先般牛馬渡世之もの江鑑札相渡に付に者

冥加金三分ツ、上納之義申達し則追々

当局江上納有之候所右者壱鼻綱二付

三方 一系不太但历之 医电流 人

鑑札壱枚御渡し冥加金三分ヲ上納之

御規則二而千余両分渡世致度向者右

割合,以冥加上納不改重而者不相成事

二付其心得二而壱鼻綱之分渡世致度

もの共其旨可申出候

有無共肝煎役上ニ而取集メ当局江可差出もの也右両条与合之内村々至急取調来ル廿九日迄ニ

前書之通御達有之候条承知被成来パ廿八日迄に

有無取調拙者江御持参可被成候

八月廿五日 戌/下刻

千手堂 遠山 平沢 志賀 下里

小川 安戸 皆谷 贄川

同廿五日子√下刻平沢より■■早々下里¼継送り候

大友帝

弘文天皇 廃帝

淳仁天皇 九条廃帝

仲恭天皇

右之通三帝御謚被為

奉候条此旨達候事

<sub>年</sub>七月 太政官

置候処近来野荒致候ものも有之野荒之義ニ=付=者兼=厳敷申渡

哉:相聞甚以不相済事:而右様

心得違之もの無之様相互『心を付

合繁々野廻り致し見当り候ハト

速上差押置可訴出候自然其場上

至リ候而者村役人者勿論親類与合

此旨末々迄可申聞もの也 村役人上ニー常々厳教誠可致候 村役人上ニー常々厳教誠可致候

別紙御通之趣申達候分界中不洩庚午八月(民政裁判所)

様可相觸もの也

今般被仰出有之候諸寺元朱印地今般被仰出有之候諸寺元朱印地は大川大し其村限リ綴込候ヶ宜敷いたし其村限リ綴込候ヶ宜敷御座候趣に有之候左之思召に而早々御座候趣に有之候左之思召に而早々御村方も少々振合違ひ申候上者理直に差出可被成候且又村鑑帳之電力がある。

以急廻啓上仕候然者過日中御達申上候村鑑

帳之事明日代ョ以伺上候処村鑑帳之外

明細帳弐冊ツヽ差出候用紙之義村鑑

帳半紙明細帳美濃紙ニ℡相認メべく

趣被仰聞候由尤直段被仰聞候義

も無之候得共火急之義御差図も可

有之義ハ心得候迄御達申上候此廻状

早々に順達

追而御達申上候銭切手ハ差出被成候村々

引換 "相成候間受取 "御出向可被成候

急紙ヲ以啓上仕候然者今日御達し申上候寺調書

帳面御廻下ヶ紙別書之通其所江罷置御差

出し可被成候右趣今朝申残し申候態々

御達し申上候以上

簾藤万衛

寺院調書雛形之振合ヲ以相認メ可

名ニー除地有之候向者反別其外取調

地蔵免或者虚空蔵免抔与申仏

差出事

但 神号江附除地者

書出し二不及候

現在修験『雁相続罷在候者所持之除地

反別其外巨細取調寺院調書雛形之

通相認ゞ可差出事

兼而引分ヶ相成候義ニハ可有之候得共自然

混淆致居候向者相改書出し可申事

村々百姓二而仏号二附候除地反別所持之

もの者是又前同様取調可差出事

一村々百姓『有之仏号之家作者何建

何ヶ所与相認メ可差出事

前書之通取調来ル十日迄に無間違差出し可申旨

被仰聞候間左様御承知被成来パ九日夕

迄二拙宅へ調書御差出可被成侯尤百姓持抔二も

無之村方者其訳下ヶ札二致早々相廻し

留村より調書与一所ニ御持参可被成候若し

留り村に右之類無之候ハヽ最寄出向し

村等へ御継戻し可被成候以上

午九月七日 鎌形村

申づ中刻 簾藤万衛印

千手堂 遠山 平沢 志賀 下里

右村名主中

面『致し御差出し可被成候尤其神主三追而復餝神主』相成院跡無之分も其段書

中秋祭自今男山祭与改称被

仰出候事

<sub>午</sub>八月太政官

牛馬渡世之者共鑑札明七日より相渡

候条早々当局江罷出請取候様其分

界内渡世人共江無洩落可申通候

別紙之通御達有之候間例之通相触者也

午九月六日 民政裁判所

松山與頭取

別紙二件之趣御達有之候間得御意早々

順達被成留村より御返却可被成候以上

午九月七日 下里村

頭取名主

未中刻発

玄友

同村 遠山村 鎌形村植木山 須江村

将軍沢 根岸村 大蔵村 千手堂村

平沢村 志賀村 小川 安戸

皆谷村 贄川村

右御名主中

午九月七日

Ή

根岸村

鎌形村

御名主中

簾藤万衛

御用村

以廻状啓上仕候然者牛馬渡世之もの

共江御鑑札相渡二相成拙者上江御下

二相成候間為請取御出向可被成候尤御受

書差出申候義:付当人印形并村役人

形印御持参可被成候以上

午九月七日 簾藤万衛

根岸村 千手堂村 志賀村 月/わ村

右村々御名主中

七月分弐斗九升五合かへ

一売麦壱斗八升

代弐分ト壱貫百壱文

八月分三斗かへ

一〃壱斗七升四合

代弐分一八百文

≥ 壱両ト

壱貫九百壱文

右者其村いねへ被下売麦代書面之通

下遣候条着之節者例之通取計

御用戻之砌リ請取書可差出もの也

<sub>年</sub>九月八日 民政裁判所

志賀村名主

当御支配所のもの共盗賊引合"限

忍藩川越藩韮山県浦和県巌

鼻県より直々呼出候筈双方辨

理之ため打合済『付此段無洩落

村々へ可令布告候被呼出候前後之

内其譯可申出もの也

<sub>年</sub>九月五日 民政裁判所

要っ辨ず徒に下直之蚕卵を求るより 悪っ辨ず徒に下直之蚕卵を求るより 悪っ辨ず徒に下直之蚕卵を求るより 悪っ辨ず徒に下直之蚕卵を求るより

右様濫雑之品を以被相欺遂に翌年ノ

産業ヲ誤リ候次第ニ立至リ甚以無謂事ニ

候殊二本来者蚕種殊之外違作にて此

侭打捨置候<sup>而者</sup>来年之養蚕

一般之衰微ニ至るべきは必然ニ付其管

内養蚕之者共江別紙の通不洩様懇に

暁諭 · 及ひ且最寄養蚕熟練之者又者

村役人等厚く申合せ前條濫製之蚕卵ヲ以

未熟之もの共欺き候様のもの有之候ハヽ吃度

取押汽相当之咎可申付持蚕種売買之者

共右諭告之趣意相辨互に実意ヲ以

取引致し候様且又従来蚕卵ヲ製する者共

にも丁寧に説諭いたし一時之利にのみ不

泥精良の原蚕卵御国内に相残り将

来之生産倍值。相成候様世話可

行届候事

庚午七月

民部省

諭告

蚕卵紙之義者御国産第一の品にて其豊

凶によりては御国内ノ損益のみならず貿易

上にも差響き内外之人民商業の盛衰

二拘る程のものなれば是迄度々 厚御世話も

被成ける処今年者諸国共稀成違作にて

来年養蚕の元種普く可

行届哉も難測候間商人共一時目前之利

益ヲ得るため随意ニ輸出いたし候ハヽ自然

夏蚕再書蚕夜附等の粗悪ノ品のみ

相残り好元種尽果可申者勿論にて貿

易も自然に相衰ひ国内損失不少

内外人民商業繁盛の道も源を塞根ヲ

絶つに均しく尤可憂事といふべし今国

民商業ノ利益ヲ請貿易永続繁盛せしめん

と志すもの盛衰ノ利を辨エ損得ノ分知を

考へ国内用に残すもとなれい外国へ売渡す

より利益少しといふとも今日一已丈ヶの小損

者来年全国中ノ大利となり一時目前

之小利者後日意外/大損と成随而

貿易も衰微に致れハ国ノ安寧人の康

福ヲ保つべからず道理ヲ暁り私慾ニ溺

事無国の産物年ニ増加し製造月に

精良『至り人の交際日』厚く国売り

城隔つとも人と人との間共に利益と

同し永く安寧康福ヲ保事ヲ謀る

べし元来蚕の豊凶者元種の善悪に

帰する訳成者養蚕のみは假令案外之

高価といへとも可成丈精良の発原種を

求、生産繁殖し東洋第一宝品)名を

――伝虚―――可らさらしむる事肝要也 芸れは各民銘々眼前の小利ニ迷わず来 歳の利根を培養し全国将来大益の 心掛ヶ蚕種製造」ものにて可成精良」 品ョいら『国内用ニ売出し又是を買入る ものにて其価」出入を厭わず専ら精 良」品を撰むべし是実に人民の残 業」盛にし生産繁盛」基本ョ謀る ためなれハ篤と右の御主意ョ奉行 心得違無之様致スベし

<sub>年</sub>七月 民部省

可致觸達もの也右之通御達有之候条ハ分界内不洩落

民政裁判所

御差出可被成候以上 特々取集メ来ル十八日迄ニ差出候様被仰 対々取集メ来ル十八日迄ニ差出候様被仰 間候ニ付例年之通半紙帳ニ而宜敷可 聞き出可被成候以上

簾母万衛

午九月十五日

回状ョ以啓上仕候先以秋冷相募候得共 各々弥御安静御勤務被成奉欣喜候然者 村々<sup>二而</sup>諸事祭礼等人寄致し出願仕候向者 其似寄三役之ものへ相達し候上出願致候様 其似寄三役之ものへ相達し候上出願致候様 ものへ相達候様可被成候此段左様御承の

簾形万衛

午九月十六日

九月廿二日

聖上御誕辰毎歳此日ヲ以天長節トシ郡臣ニ酺

宴ヲ賜ヒ可被下之刑戮ヲ停メ衆庶ト

御慶福ヲ共ニ被遊度旨一昨年御布告

相成候処未ダ末々迄御旨趣貫徹不致

向も有之趣『付府藩県共此旨篤ト奉体》

衆庶一同御慶辰ヲ奉祝候様可致旨更

被仰出候事

庚 午 九 月

太政官

族始メ士庶人ニ至迄入学被差許候事今般東京府中学校被開候ニ付華

庚 午 九 月

21

今般御改正に付民会営築之三局合して

下廰与唱ス依テ役配左之通ニ有之間村々

小前ヲ始メ社寺ニ至迄不洩様可相達もの也

下庁役配鳥居賀八郎

掌事 佐野生七郎

民政取扱庶務 永井召吾

社寺宗門駅逓 横山民治

高嶋勘平

鷲田伝八

同試補

石井又雄

中川幾衛

軽部志之平

山川太郎八

星信光

井上道五郎

山川領平

時宜ニョリ土木

同下使

租税兼勤

羽田茂登治

之方兼

租税開拓勧農

山林取扱庶務

租税専任 田辺武一郎

丸山愛作

土木専任

同試補	
杉辺八智	

出納賜給司倉司庫 同見習弐人 塩澤彦四郎 原山小生太 郎平

諸局公廨取扱庶務 田村彦太郎

成田右源治

伊藤専好

同試補

星元次郎 木村州三郎

梅津勝三郎

松本春夫 鈴木升三

小針象平

殖断取扱庶務

山川岩雄

横目兼

岡部敏雄

石田盛吾

同試補

星弥太郎 平田近三 同下使

	同添	御兵掛リ		同添		御学所掛リ			同補			上庁書記	下庁書記			同下使	工師兼			同試補		土木取扱庶務	
鈴木升三		佐野生七郎	久保木鉄太	高嶋勘平	鳥居賀八郎		平本為五	稲田庫平	野口耕太	宗像昇平	小峰惣三	岡 柳 正	渡辺慎吾	中尾掌平	高橋安太	関根宗二郎	石浜与作	谷嘉門治	平山小生太	塩沢彦四郎	丸山愛作	田辺武一郎	大塚紬郎

大川脩三

山川岩雄

岡部敏雄

石田盛五

平田近三

星弥太郎

大塚紬郎

連行之定者勿論時宜"寄夫々江右之通役配取扱相立候下雖庁内

助勤致候義も可有之候に付此旨可相

心得事

午九月十七日 裁判所

松山組

膽煎役

頭取名主

以写御達し申候早々順達被成留リ村より

前件之通御改正御役員被仰出候二付

御返却可被成候以上

午九月廿二日 下里玄友

御管内限リ馬売捌方当四月中相觸置

候通於会計局に世話いたし兼候由難

渋不致様仕法相立市ノ川村馬士増五郎与

申もの方に而来ル十月五日より七日迄三日之間

正路『売捌候旨申出候右』付望之向者

同人江尋ぶ合せ相求以候様其与合村々へ

可令布告者也

午九月廿五日 民政裁判所

堤其外損所御届書

何郡

何村

武州何郡

何村

字何より何迄

壱ヶ所

一堤欠所長延何間

字同

壱ヶ所

一堤越堀所長延何間

壱ヶ所

壱ヶ所

一薮中何程

字何川通

一堤洩所

字同

同州同郡 何村

壱ヶ所

一堤欠所長延何間

字

字 一圦樋袖堤左右之欠所長延何間

壱ヶ所

字何より何迄

一堤切所長延何間 壱ヶ所

字何川通何々

一枠出し何程

壱ヶ所

一蛇籠長何間流失

壱ヶ所

一何堰用水圦樋流失

壱ヶ所

同州同

何村

字何より何迄

一堤減所長延何間

壱ヶ所

一堤土置減長何間

壱ヶ所

一圦樋大破長延何間

壱ヶ所

字同

一同洩所

壱ヶ敷

字何川通字何ノ地先

一水刎枠何程

何ヶ所

右ハ当月十八日何風強々大雨ニ而夜或ハ 何川

満水二而堤川除其外書面之通破損所出来

仕候此段御届ヶ奉申上候以上

村役人印

明治三庚午九月

民政

御役所

水難御届書

何郡

何村

## 何国何郡

何村

田畑何反何畝何歩川欠

内 ·畑何反何畝歩 ,田何反何畝歩

田畑何反何畝何歩 同国同 郡

何村

内田何反何畝歩砂入田何反何畝歩川欠

川欠

田何反何畝歩

同国何郡

何村

畑何反何畝歩 砂入 同国何郡

何物

同国何

下家取崩何軒一民家流失何軒畑何反何畝歩川欠

何郡村

田畑何町何反何畝歩 同国何 郡

何村

内 田何畝歩 川欠田何反何畝歩石砂入

畑何町何畝歩石砂入

田畑何反何畝歩

同 床下水入何軒一民家床上水何軒 同国何 何村

田何反何畝歩」田何反何畝歩

水水川腐押欠

水 亡押 所

畑何畝歩田何畝歩

畑合デ何百何拾何町何

反何畝何歩

内何町何反何畝歩

畑田方方

民家合ヶ何拾何軒

何軒 何軒 取潰 何軒 取潰

何軒 取萠

右者当月十八日何風強々大雨ニ而何水 夜或者 何

漏水 二 川除数ヶ所亡失 田畑川欠石砂入等出来漏水 二 元堤 押 切 或 者

書面之通破損所出来仕候此段御届ケ奉

申上候以上

何郡

何村

年号月

三役人印

民政

御庁

其分界村々当月十八日大風雨二付田畑荒

処御普請場損所民家吹潰同床上ケ

床下等別帳雛形二基半巨細取調分境

限リ取集メ来月四日迄無遅滞可差出もの也

九月廿八日 民生局

膽煎名主

頭取名主

追而申達候先前出水二付田畑荒所等

兼而書出し有之所右者事荒ニ而難用ニ付

別帳雛形之通猶取調本文同様取集メ

可差出もの也

前書雛形之通御布告有之候『付御達し

申候間以刻付早速御順達可被成候

尤右日限之通に有之来ル三日九ッ時迄に

鎌形膽煎役方又者拙宅江被差出し

可被成候猶此状留『村より御返却可被成候

以上

午九月丗日酉下刻

1 目

玄友印

復餝跡寺号之義更『廃寺申付候依之当管轄所村々無住無檀之寺院并『修験

仏具者勿論除地免買添地等有之分

田畑反歩竹等之仕訳票是迄作徳取

計方巨細取調最寄三役へ取集メ

来ル十月十日限リ半紙竪帳に相認り

可差出もの也

尹午

九月廿九日

民生局

前件之趣御達有之候『付則右日限之通』

候条来ル八日限リ膽煎役簾藤万衛宅

又者拙宅江御差出し可被成候猶留リより御差

戻可被成候以上

午九月晦日

寅ノ下刻

前橋藩出張所

十月四日

松山

聴断局〇

男衾郡

今市村

役人

到 着

志賀村より村配宜早々可相達者也

此御用状到着至急御用『付以刻付立志賀村より

御継廻リ可仕来候以上

午十月四日

酉之中刻

松山町

御觸元

吉田仙次郎

石橋村 上唐子村

右村

御名主中

急継ョ以啓上致候益御多祥欣然之

到二御座候扨昨日者御来輿之有之候処

折悪敷松山表江出張二付不得貴意候得共

御申置候御村方万福寺之義者何れ与歟

御村中一統御相談之上者勧農之御主

意二基キ是非共廃寺被成侯方可然候間

御手段可被成侯尤住寺之義ハ御仕法

相立候ハ、転住も可致候間此段不取敢

申上置候猶委細之義ハ面上之上可申伸候

以上

十月四日

下里村

関根玄友

志賀村

水野喜一郎様

其村之当午一大小書継へ有之候増米

出精致し来ル廿三日迄に願書可差出もの也

十月八日

民生局

福田村下分

志賀村

右村々名主

年々違作打続難渋之折柄近頃順在之座頭

多く殊二盲女共二到迄村々役宅江相掛」宿泊共

願出候に付是迄世話致し遣し候得共中に者多人数

<sup>ニ而</sup>世話方行届兼候向も有之依<sup>而</sup>当正月中

小川村座元扇ノー江世話方為試当方

仕切相任候処当節右一条「付仲真内より

被相手取出入出来仕候趣右に付村々より世話

申出候『付拙者上より代兼取計遣し申候間此段方相頼候『相違無之』申義書面差出し貰度

左様思召可被成候且又去ル四ヶ年已前卯年

義御無心申出候儀有之処当時吟味先中扇一一武蔵一一両人ニー村々へ奉加様之

ニ而不都合之義も有之由ニ而右之趣各々様方江

御無心申上左様之奉加願出候義一切無之趣

御含"被下度願上候万一外々より周施有之共

右様奉加等之義ハ覚無之旨御答被下度

願上候此段之義も拙者上より各々様方≒不申

通取計遣し申候間右同様御心得迄『御達し

申上候間御承知可被成候委細之分ハ得貴面

万々可申上候已上

午十月八日 鎌

鎌形村

簾形万衛